



生きものの“つぶやき”:

「お前のでっぺんまでなんてひとつ飛びだからな」

エッセイ:

湖畔のベンチに座ろうとしたら、先客がいた。一匹の赤とんぼだ。周りには他にもたくさんの赤とんぼがいて、人間が近づくとすぐに逃げていったが、彼女は違った。私が隣にお邪魔させていただいても、身じろぎ一つしない。彼女は動けないのではなく、自分の意志でそこに留まっていた。その華奢な脚にはどれだけの力がこめられているのか、その繊細な羽にはどんな情熱が秘められているのか。私は彼女の凜とした姿にすっかり惚れてしまい、気がついたらその姿を写真に収めていた。

彼女の視線の先にはその頂を雲に隠した山。もしかしたら、あの山に挑もうとしていたのか

もしれない。きっとあの山の、空の、雲の中で彼女の色はとびっきりに映えるだろう。
(301字)

生きものの紹介:

アキアカネ

俗に赤とんぼと呼ばれる。日本特産種。ロシア、中国、朝鮮半島、日本に分布する。平地から山地にかけて、水田、池、沼、湿地などに生育する。

撮影場所・日時:

栃木県日光市中禅寺湖 2024年8月17日

応募者の自己紹介:

1. 氏名: 佐藤 楓夏
2. 高校・学年: お茶の水女子大学附属高等学校・1年
3. 所属: 新聞部、中国武術部

審査員からのコメント:

小さな赤トンボと雄大な自然とのコントラストが鮮やかで、トンボの視点で放ったつぶやきが絶妙です。
凜としたアキアカネの様子が伝わってきます。
いいアングルですね。